


| | | |
|---|---|-----------------------------------|
| <p>松山観光ボランティアガイドの会</p>  <p>おいでんか通信</p> | 事務局 松山市大街道3丁目2-46 | 号外第31号 2020.6.10 |
| | TEL 089-935-5711 ホームページ http://Matsuyama-guide | 発行責任者 大西修史 編集 広報事業部 部長 都合憲一 |

Nick・Name of the Castle

(投稿：松山城太郎 (匿名希望))

弘前城 (別名 鷹岡城、高岡城)



弘前は元々、鷹岡や高岡などと呼ばれていた時期がある。

現在の弘前城の場所は標高44メートルの高台にあり、当時は周囲に鷹が生息するような森が広がっていた。

その森では鷹狩が行われており、現在の地名の中にも鷹匠町という場所が弘前城近くにある。

鷹岡から弘前に変わった理由については以下の通りである。

慶長12年(1607)、家督相続をした鷹岡藩(高岡藩)二代藩主 津軽信枚(のぶひら)は、お礼言上に江戸城に伺候した直後、天海大僧正を訪れた。弟子入りするためである。当時、幕閣に対し陰で大きな影響力を持つ「黒衣の宰相」天海に近づく大名は多かった。その力に頼るためである。だが信枚は違っていた。自ら天台宗に帰依改宗し、熱心に教義を学んで藩内に天台宗の寺院を建立、高弟を迎えて布教に尽力した。天海は信枚の律儀を愛し、深い信頼を寄せた。

念願の鷹岡城築城は、慶長16年(1611)である。着工よりわずか1年2ヶ月という驚異的な速さで完成した。東西5丁40間、南北8丁46間、総面積14万4千余坪、三重の堀で囲まれた場内には、五重の天守を含め8つの櫓が建てられた。

高岡城が完成してから16年後の寛永4年9月(1627)落雷により五重の天守が炎上した。翌年、三重の櫓を再建し天守に代えたが、それを機に城名を「弘前城」と変え、以後領内も弘前と呼ばれるようになった。命名者は天海である。天台密教の破邪の真言「九字の法」から撰んだ言葉だと言われる。名付け親となった天海は、家康から三代将軍家光時代まで隠然たる力を振るい、108歳で天寿を全うした。



(続く)

(写真：弘前公園ホームページより)



「坊ちゃんとマドンナ」像

ロープウェイ駅舎の出口横に「坊ちゃんとマドンナ」像が設置されました。

松山中央ライオンズクラブ結成 55 周年を記念して、同クラブから寄贈されたものです。

同クラブからは、45 周年記念として「加藤嘉明公騎馬」像、50 周年記念として道後放生園に「正岡子規」像が寄贈されています。

道後温泉の PR カーです

メーカー所有の車体にペイントを施したものです。必要に応じて随時出動です。



道後地区のマンホール

温泉マークの図柄が入ったマンホールです。どこにあるか分かりますか。



広報部より

ガイドの活動が軌道に乗るまで、「おいでんか通信」を休刊とさせていただきます。

マスクの着用、手洗い・うがいの励行を!!